

月刊 ととろ



独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第196号

令和2年8月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します

月1度の面会を 開始しました

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、面会を禁止していましたが、7月1日よりオンライン面会サービス、7月10日よりラウンジ及び病棟面会が開始になりました。オンライン面会サービスは初の試みであり患者さん、ご家族の方に満足していただけるサービスが提供できるかスタッフも不安でした。しかし、画面を通しての久しぶりの面会では、「顔が見ただけでも嬉しい」と涙を流されるご家族や、お互いに手を振って笑顔で喜ぶ姿も見られました。ある患者さんは、画面に映っている姿と声に不思議そうにしていたが、徐々に慣れてくると笑顔が見られ、ご家族と楽しい時間を過ごしておりました。

ラウンジ及び病棟での面会では、久しぶりに直接会えたことを、ご家族と触れ合い喜ぶ姿が見られました。また、担当看護師から、病棟での様子を直接聞くことで、ご家族より「元氣そうで安心しました」という声がありました。「また来月も会いにくるからね」と名残惜しそうな姿をみると、一日でも早く面会回数や時間の拡大ができれば、という思いが込み上げてきます。まだまだ予断を許さない状況ですので、しばらくは現状のまま面会の支援をしていきたいと思っております。

第1病棟 看護師長：高橋 佑美



新しい面会(オンライン)の 始まりと面会一部緩和の様子



昨年のインフルエンザが流行する時期から、新型コロナウイルスの広がりを受け、完全なる面会制限をしていました。洗濯物を取りに来てくださるご家族様から、何度となく一目だけでも会わせてもらえないかとお願いをされ、心が痛む思いでした。

療養介護病棟では、7月1日からのオンライン面会という初の試みを実施しています。2病棟の第1号の患者さんの時は、新人看護師と療育指導室の高橋さん、保育士の小野寺さんと共に車椅子に乗り、散歩がてらのオンライン面会でした。ラインでの通話が始まると同時に、患者さんに満面の笑みがこぼれ、タブレットに映るお母さん、お父さんの姿に、終始、嬉しそうに声をあげて笑っていました。その様子に私も嬉しくもらい泣きの状態でした。新しい生活様式をとり入れていく中で、オンライン面会という新しい形も、今後多岐にわたり活用していけるのではないかと思います。

また、今回、社会の動向に合わせ、7月10日から面会制限の一部解除が始まりました。車椅子に乗れる患者さんは、ラウンジでの面会とし、人工呼吸器等を装着している患者さんは、病室での面会となりました。月に1回15分、ご家族2名までという制限はあります。しかし、久しぶりに直接会うと、患者さんもお家族様も楽しい嬉しい、涙の面会となりました。患者さんの手を握ったり、お顔を拭いたり、積もる話に花を咲かせていました。

ご家族様とメールなどでのやり取りができる患者さんでも、やはり目の前で会い、話せることの喜びは多大なるものです。

今後の新型コロナウイルスの状況がどのようになるかは、まだまだ見通せませんが、少しでも患者さん、ご家族が安心できるように看護に努めていきたいと思っております。

第2病棟 看護師長：佐藤 美恵子

第3病棟の面会再開について

7月10日より月1回15分の面会が許可となり、そのお知らせを随時ご家族へ郵送させていただきました。感染予防のため必要な処置ですが、久しぶりの面会が15分しかできない患者さんやご家族のお気持ちを考えると、とても複雑な思いでした。

しかし、実際にご家族と面会した患者さんは、「嬉しかった」「来月がたのしみ」と笑顔で話してくださいました。ご家族からは、「短くても顔がみられて本当に嬉しかった。機会を作ってくれてありがとう。」「会えてとても安心した。」「来月を楽しみにしますね。」「色々大変ですね。いつもありがとうございます。みなさんもお体に気をつけてくださいね」などのお言葉を頂きました。15分という面会時間もお守りいただいております。感染予防にご理解とご協力を頂き患者さん、ご家族の方々へ本当に感謝の思いです。同時に大切なご家族をお預かりしている者として、「改めて感染予防に努めていかなくては」と決意を新たにしております。

病棟スタッフも、新型コロナウイルス流行前とは違う業務が増えました。額に汗を流しながら、洗濯物の受け渡しに何度も病棟と1階ロビーを往復している姿や、ご家族に普段の様子をお伝えしている様子を見ては、頼もしく感じるとともに感謝の思いです。

まだ分からない事が多い新型コロナウイルスですが患者さん、ご家族のご理解・ご協力のもと感染予防を行い乗り越えていきたいと思っております。引き続きよろしくお願ひ致します。

第3病棟 看護師長：高橋 佑果

オンライン研修【医療用 HAL®編】

当院は、平成 29 年度 4 月より医療用 HAL®を導入しました。HAL®とは患者様の歩行機能を改善するロボット治療機器として、初の保険適応対象となった歩行訓練用ロボットです。

HAL®による治療を提供するために、操作者であるスタッフは講義や実技を含めた研修会をクリアする必要があります。当院では、4名の看護師と共に HAL®を運用してきましたが、今年度は新たに5名の看護師が研修を受講しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっているため、今回が初となる ZOOM を用いたオンラインによる研修となりました。オンライン研修は、運営側も慣れない作業である為、戸惑うことも多々ありましたが講義と実技を合わせて約4時間、無事に執り行うことができました。また、オンライン上では詳細な研修は難しいかと思われましたが、HAL®講師の指導のもと、適切に HAL®を装着、操作を練習することができました。研修に参加した看護師は、長時間にわたる研修にも集中を切らすことなく、無事に課題をクリアすることが出来ました。

その後、新たに HAL®操作者となった看護師は、繰り返しの装着練習を経て、現在はスムーズに患者様へ提供することが出来る様になっております。また、看護師が HAL®に関わる事により、理学療法士では気づかない身体の状態も把握できるようになり、より充実した HAL®での歩行練習が実施できるようになりました。

今後も、研修を受けた 9名の看護師と当院理学療法士 7名で協力し、多くの患者様に喜んで頂ける様精進していきたいと考えております。

理学療法士：鈴木 一恵





NHO PRESS ~国立病院機構通信~

いわき病院は、全国 141 病院からなる国立病院機構 (NHO: National Hospital Organization) のひとつです。

NHO では各病院の活動を紹介する『NHO PRESS』を発行しています。

外来待合室などに設置しています。ぜひご覧になってください。

国立病院機構ホームページでは最新号と過去の『NHO PRESS』を掲載しています。



QRコード

NHO PRESS

検索

いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、小児科 (小児神経疾患)、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30~11:30 (ただし、救急患者は随時受け付けております。)
- 診療時間 8:30~17:15

外来担当医師診療日程表 【平成31年4月~】

区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科 診察室① 鈴木 診察室② 市原	診察室① 無量井(第2)	診察室① 鈴木 診察室② 齋		診察室③ 仙台医療センター
	脳神経内科 診察室③ 尾田宣仁	診察室③ 會田隆志	診察室③ 尾田宣仁	診察室① 関/會田 (交代制)	診察室① 関 晴朗
	外科			診察室② 田崎 博	
脳神経内科専門外来 (予約制)					
午後	神経難病 神経筋疾患 《診察室①》		(脳神経内科) 関 晴朗		
小児神経外来 (予約制)					
午後	小児神経外来 《診察室①》	(小児科) 柳沢俊郎			(小児科) 柳沢俊郎



■ お知らせ ■

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院地域医療連携室を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**
National Hospital Organization Iwaki National Hospital
責任者 院長 関 晴朗
新所在地 〒971-8126 福島県いわき市小名浜野田字八合 88 番地 1
TEL 0246-88-7101 FAX 0246-88-7075
ホームページ <https://iwaki.hosp.go.jp/>